

バーゼル条約改正で重み増すリサイクル技術

◆ 廃プラの輸出入規制を定めるバーゼル条約改正を日本も主導

2019年5月に開催されたバーゼル条約（有害廃棄物の国境を越える移動及びその処分の規制に関する条約）締約国会議で、汚れた廃プラスチック類（廃プラ）を規制対象とする改正案が採択された。21年1月より汚れた廃プラの輸出が国際法により制限される。改正案はノルウェー、日本、スイス、ザンビアなどが推進した。改正に向けて日本が主導的に動いたことは評価される。

なお同時に、5月の締約国会議で、廃プラに関するパートナーシップの設立が決まった。主に途上国に対策技術や財務面などで支援し、各国の廃プラ削減への取り組み状況の情報収集や、普及啓発を行う。20年以降に活動を開始する。

◆ 国際的な評価を含め重視される廃プラのリサイクル技術と事業化

日本は廃プラを毎年約900万トン排出している。17年は、うち143万トンのリサイクル目的で輸出し、輸出量は世界上位にある。中国への輸出が禁止された18年は101万トンとなり、環境省は国内での廃プラ処理関連の予算を増やしている。

リサイクラー	リサイクル原料	再生材、用途	(所在地) 開発時期(年)	備考
協栄産業 (共同開発 サントリー)	使用済 PET ボトル	PET ボトル など	(栃木県) 2011 2018	マテリアルリサイクル ボトル to ボトル フレック to ボトル
ペトリファイン テクノロジー(PRT) (株主は日本環境設計)	使用済 PET ボトル	PET ペレット (ボトル、織 維など)	(川崎) 2004	ケミカルリサイクル (モノマーリサイクル)
日本環境設計	使用済 PET 衣 料と PET ボトル	PET ペレット (ボトル、織 維など)	(北九州) 2018	ケミカルリサイクル (モノマーリサイクル) Bring 計画
昭和電工	廃プラスチック	合成ガス→ 水素→ アンモニア	(川崎) 2003	ケミカルリサイクル 廃プラから合成ガス、 シフト反応で水素に変換
積水化学工業	可燃ごみ (廃プラスチック 含む)	合成ガス→ エタノール	(埼玉県) 2014~17 パイロット運転 オリックス寄居工場	ケミカルリサイクル 微生物*を使い、合成ガ スの発酵でエタノール合 成 *米ランザテック社技術

(各種情報を元に旭リサーチセンター作成)

すでに民間では国内でリサイクル事業を展開している例もある。表のようなマテリアルリサイクル、ケミカルリサイクル事業が国内で重みを増すことになり、国際的にも評価を高めることになるものと思われる。 【新井喜博】